

令和4（2022）年度
東京大学大学院学際情報学府
学際情報学専攻
修士課程学生募集要項
（冬季募集）

社会情報学コース
文化・人間情報学コース
先端表現情報学コース
総合分析情報学コース

※受験予定コースの「入学試験案内」も併せて確認すること。

(URL: <http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/>)

【本要項の問合せ先】

東京大学大学院学際情報学府事務部学務チーム
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
電話 03-5841-8769, 8768
E-mail: gakumu@iii.u-tokyo.ac.jp

令和 4(2022)年度東京大学大学院学際情報学府 学際情報学専攻修士課程学生募集要項（冬季募集）

教育研究上の目的

本学府は、全学の情報関連教育研究組織の有機的な連携のもとに、学際的かつ実践的な学びの環境を提供し、高度情報化社会の諸分野で求められる情報の処理技術、それらの社会的な意味や機能に関する高度な知識を幅広く有する人材を育成することを目的とする。ここでは、実践的な情報リテラシーを身につけた人材養成と社会人再教育を行うと同時に、文理融合的に情報学のフロンティアを切り開く研究者・表現者の養成を行う。

入学者受入方針

1. 東京大学大学院学際情報学府修士課程は、専門分野を学ぶための十分な基礎学力を具えており、情報現象についての文理を越境する幅広い視野と、社会情報学からコンピュータ科学までの高度な専門的能力とを、同時に習得したいという高い意欲を有し、かつ、既成の概念にとらわれない新鮮な着想力を持って、情報学のフロントランナーとして、未知の問題の解決に向けて独創的かつ文理融合的なスタンスで取り組むことができ、情報学の分野で新たな知を創出することのできる学生を求めらる。
2. 入学者選抜においては、以下の点が問われる。
 - ・ 志望分野に関する専門的知識を有しているとともに情報学全般にわたって広い知識をもつ人材になりうる基礎を具えていること
 - ・ 志望分野において自らが主体的に問題を発見し、自らが有する専門知識と研究手法に基づいてそれを解決する能力をもつ人材になりうる基礎を具えていること
 - ・ 将来国際的な場でも活動しうるだけの語学能力の基礎を具えていること

1. 出願資格（以下(1)～(6)のいずれかの要件を満たす者）

- (1) 日本の大学を卒業した者及び令和 4(2022)年 3 月 31 日までに卒業見込みの者(注 1)
- (2) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 4(2022)年 3 月 31 日までに修了見込みの者(注 2)
- (3) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について当該外国政府又は関係機関により評価を受けているものに限る）。において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和 4(2022)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者(注 2)
- (4) 文部科学大臣の指定した者 又は文部科学大臣が指定した教育施設等を修了した者及び令和 4(2022)年 3 月 31 日までに修了見込みの者(注 3)
- (5) 大学改革支援・学位授与機構により、学士の学位を授与された者及び令和 4(2022)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (6) 個別の入学資格審査をもって、日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学府において認めた者で、令和 4(2022)年 3 月 31 日において 22 歳に達している者(注 1)(注 4)

(注 1) 上記(1)、(6)の「日本の大学」とは、学校教育法第 83 条の定める日本国内の大学を示す。

(注 2) 上記(2)、(3)には、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了した場合を含む。

(注 3) 上記(4)に該当する者とは、次の学校又は教育施設の卒業生（修了者）等を示す。

- ・文部科学大臣の指定する外国学校日本校
- ・文部科学大臣の指定する専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）
- ・旧大学令による大学又は各省庁設置法・組織令、独立行政法人個別法による大学校

(注 4) 上記(6)に該当する者とは、上記(1)から(5)に該当しない者のうち、4年制の大学に相当する教育施設の卒業生（修了者）等で、個別の入学資格審査により、日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学府において認めた者である。ただし、出願時に大学3年次に在学し、令和3(2021)年3月31日までに卒業する見込みでない者については、本学府では出願資格を認めていないため、上記(6)にも該当しない。

○ 上記(6)の資格により出願しようとする者については、以下の書類等を10月22日(金)までに必ず書留郵便により本学府事務部学務チーム(後記2.(3))に郵送すること(10月25日(月)以降に到着したものについては、10月22日(金)までの消印があるものに限り有効とする)。

その際、封筒の表に「東京大学大学院学際情報学府修士課程出願資格(6)」を明記すること。

※個別の入学資格審査に伴う提出書類については、原則として返却しない。

書類等	提出者	摘要
履歴書	出願資格(6)	任意様式（以下の事項を記載） ・生年月日、現住所、電話番号、E-mail等連絡先 ・小学校からの全学歴（それぞれの学校名、入学・卒業年月、在学年数及び正規の修業年数を明記） ・その他、研究歴、国際的活動経験、実務経験、取得資格、各種国家認定試験、公表論文・著書、学会等における発表の実績、受賞歴等、該当するもの ・個別の入学資格審査時点での希望コース
成績証明書		最後に在籍した（又は在籍中の）教育施設の成績証明書
審査結果通知用封筒		長形3号の封筒（120mm×235mm）に出願者本人の宛名等を記入し、374円分の切手を貼ったもの
教育施設に関する資料		出願者の在籍した（又は在籍中の）教育施設の概要、授業内容・教材等、授業時間数、採点・評価基準等の掲載されている冊子等

○ 個別の入学資格審査で大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学府において認めた者（出願資格(6)の場合）について、出願を受け付け、受験を許可する。

なお、審査の結果は11月18日(木)までに郵送により通知する。

2. 出願方法・出願期間等

- (1) 出願方法 出願は、原本の郵送に加え、推薦書、写真票を除いた、後記「7. 提出書類等」を一つのPDFファイルにまとめ、指定のウェブサイトよりアップロードすること（アップロード方法の詳細はウェブサイトに掲載する）。推薦者には、推薦書のアップロー

ドを別途依頼すること。郵送した提出書類と PDF ファイルは必ず同じ内容とすること。郵送にあたっては、後記「7. 提出書類等」を一括して各自で用意した角形 2 号の封筒 (240mm×332mm) に入れ、書留速達郵便とすること。郵送物は返却しない。

- (2) 受付期間 12月7日(火)～12月9日(木)
 (郵送物について、12月10日(金)以降に到着したものについては、12月9日(木)までの消印のあるものに限り有効とする。「7. 提出書類等」のアップロードは、12月9日(木) 23:59 (日本標準時間) までにアップロードが完了したものに限り有効とする)。
- (3) あて先 東京大学大学院学際情報学府事務部学務チーム
 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
 電話 03-5841-8769, -8768

3. 選抜方法

- (1) 入学者の選抜は、一次選考及び二次選考による。ただし、二次選考は、一次選考合格者についてのみ行う。
- (2) 一次選考の判定は、外国語及び書類選考により、行われる。
- (3) 二次選考は、これに加えて口述試験 (オンライン) を行い、一次選考の内容と合わせて総合的に判定する。

4. 選考期日及び場所

二次選考 (口述試験) : 一次選考合格者を対象にオンラインで行う。
 令和 4 (2022) 年 2 月 5 日 (土) から 2 月 6 日 (日) のうち、いずれか一日を指定する。二次選考 (口述試験) の詳細については、受験票とともに郵送する「受験者心得」による。

5. 試験科目及び募集人員

専攻	コース	募集人員 (注1)	一次選考		二次選考	
			筆記試験		書類選考	口述試験
			外国語	専門科目		
学際情報学	社会情報学	夏季・冬季 あわせて 15名 (注2)	英語 TOEFL 等の成績を利用する。 (注3)	当該コースの専門に関わる領域。	提出書類等(外国語試験の成績証明書を除く全ての書類)に基づいて行う。 (注4)	
	文化・人間情報学	夏季・冬季 あわせて 20名 (注2)				
	先端表現情報学	夏季・冬季 あわせて 23名 (注2)				
	総合分析情報学	夏季・冬季 あわせて 21名 (注2)				

- (注1) 募集人員は学際情報学専攻全体で100名である(別途募集するアジア情報社会コース11名を含む)。各コースの募集人員は目安であり、出願状況や選考結果によって増減する場合がある。
- (注2) 社会情報学コース、文化・人間情報学コース、先端表現情報学コース及び総合分析情報学コースは夏季にも募集を行っている。上記の募集人員は夏・冬の合計人数である。
- (注3) 各コースが指定する外国語試験の成績証明書を提出すること。詳細は受験予定の各コースの「入学試験案内」を参照すること。
- (注4) 先端表現情報学コースの特別選考枠については、基礎及び専門学力、研究能力及び研究計画、ならびにポートフォリオの内容について総合的に行う。
- ※ 試験科目 (TOEFL 等を含む) の詳細については、受験予定の各コースの「入学試験案内」を参照すること。

6. 特別選考枠

先端表現情報学コース、総合分析情報学コースでは、特別選考枠を用意する。
特別選考枠の詳細については、受験予定の各コースの「入学試験案内」を参照すること。

7. 提出書類等

書類等	提出者	摘 要
*入学願書(正・副)	全員	所要事項を記入したもの。
*受験票	全員	所要事項を記入したもの。
*写真票	全員	画像データは不可。PDF化不要(郵送のみ)
成績証明書	全員	<ul style="list-style-type: none"> ・学部(教養課程を含む4年間)の成績証明書 ・大学に編入学している場合は、編入学前の大学等の成績証明書も提出すること。 ・原本を提出。
出身大学の卒業証明書	既卒業者 (出願時に大学を卒業している者)	<ul style="list-style-type: none"> ・成績証明書に卒業年月日が記載されている場合は不要。 ・外国の大学を卒業した場合は、取得学位が記載されているもの。 ・出願資格(5)の者は、大学改革支援・学位授与機構(学位授与機構又は大学評価・学位授与機構を含む)が作成した学位授与証明書を提出すること。 ・原本を提出。
外国の大学の卒業見込証明書	外国の大学の卒業見込者	原本を提出。

<p>【銀行振込の場合】 *「東京大学」 入学検定試験検 定料振込金受付 証明書（C票）</p> <p>【コンビニエンス ストアでの払込の 場合】 収納証明書</p> <p>【クレジットカード での払込の場合】 「受付完了画面」の プリントアウト</p> <p>【ペイジー対応A TM、ペイジー対 応ネットバンク、 ネット専門銀行で の払込の場合】 「照会結果画 面」のプリントア ウト</p>	<p>全員（日本政府（文部科学 省）奨学金留学生を除く）</p>	<p>検定料：30,000円 銀行振込、コンビニエンスストア、ペイジー対応A TM、ペイジー対応ネットバンク、ネット専門銀行 又はクレジットカードでの払込に限る。また、いず れの場合においても振込手数料又は払込手数料は 出願者本人の負担となるので留意すること。</p> <p>【銀行振込の場合】 所定の振込依頼書に必要事項を記入のうえ、最寄 りの金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局不可）から振 り込むこと（ペイジー対応A TM、ペイジー対応ネ ットバンク、ネット専門銀行での所定の方法での 払込の場合を除き、A TM、インターネット等は利 用しないこと）。振込方法等の詳細は、本学府所定 の振込依頼書及び注意書を参照すること。</p> <p>【コンビニエンスストア又はクレジットカードでの払込の場合】 コンビニエンスストアは、セブン-イレブン、ロー ソン、ファミリーマート、ミニストップに限る。 実際の払込に関する操作手順や注意事項について は、別紙 「東京大学大学院学際情報学府での検定料払込方 法」 を参照のうえ払い込むこと。 また、払込の際に発生する払込手数料は出願者本 人の負担となるので留意すること。</p> <p>【ペイジー対応A TM、ペイジー対応ネットバン ク、ネット専門銀行での払込の場合】 払込に関する操作手順や注意事項については、別 紙の「東京大学大学院学際情報学府 検定料払込 方法」を参照のうえ、払い込むこと。払い込み後、 E-支払いサイトの「申込内容照会」にアクセスし、 受付完了時に通知された【お客様番号】と【生年月 日】を入力し、照会結果を印刷して入学願書の所定 の欄に貼り付けること。</p>
<p>* 研究計画書</p>	<p>全員</p>	<p>本学府入学後の研究計画を、A4判任意用紙にまと めたもの（両面印刷し、本学府所定の表紙を付ける こと）。</p>
<p>* 自己推薦書</p>	<p>全員（総合分析情報学コー スを受験する者を除く）</p>	<p>出願者の基礎学力及び専門領域の能力を自らが評 価し、記入したもの。必要に応じ、情報学及びその 関連する分野における実績があれば、その概要を 記したものと目録、現物（著書、論文、報告書、作 品など）が掲載されている URL 等を記入するこ と。</p>

研究成果物（注1）	文化・人間情報学コースを受験する者	研究成果物： (1) は必ず提出すること。(2) は業績、研究計画に応じて提出してもよい。 (1) 卒業論文,あるいはそれに相当する学術的な論文。 (2) 作品等を収録したポートフォリオなど。 論文誌・プロシーディングス等の刊行済み以外の業績については、指導教員・勤務先の上司などによる、客観的な評価を推薦書に含めるよう、評価者に依頼すること。
* 指導教員希望調査書	全員	所要事項を記入したもの。
外国語（英語）試験成績証明書等（注1）	全員	2020年1月1日以降、前記「2. 出願方法・出願期間等（2）受付期間」終了までに受験したもの。詳細は受験予定の各コースの「入学試験案内」参照。
* 推薦書	全員（社会情報学コースを受験する者を除く）	出願者の専門領域に関わる研究面あるいは実務面での経験及び能力に関する評価を記入したもの。評価者は、官公庁、企業及び団体等の所属機関の上司、卒業論文他学位論文の指導教員、その他本人の経験及び能力を熟知している者等とする。
* 卒業論文等	社会情報学コース	学部卒業論文（ドラフトでも可）またはそれに代わる研究論文。コースの入学試験案内（修士課程）に添付されている表紙を付けること。
受験票送付用封筒	全員	各自で用意した長形3号の封筒（120mm×235mm）の表（おもて）に出願者本人の宛名等（郵便番号、住所及び氏名）を記入し 384 円分の切手を貼ったもの。
* 書類送付先	全員	所要事項を記入したもの。
* 日本語学力証明書	外国人（日本の大学を卒業した者及び卒業見込みの者を除く）	日本語担当教員又はこれに準ずる者が作成したもの。
* 出願チェックシート	全員	所要事項を記入したもの。

※ *印は、所定様式を使用すること。ただし、研究計画書及び卒業論文等については、表紙のみ所定様式を使用すること。

※ 提出書類等についての詳細は、受験予定の各コースの「入学試験案内」を参照すること。

（注1） 前記「2. 出願方法・出願期間等（2）受付期間」に間に合わない場合は、別途、各自で用意した封筒により、令和4（2022）年1月4日（火）必着で書留速達郵便により郵送すること（詳細については、受験予定の各コースの「入学試験案内」を参照すること）。

8. 合格者の発表及び入学手続

- (1) 一次選考（外国語及び書類選考）合格者の受験番号及び二次選考（口述試験）の試験日・集合時刻は、令和4（2022）年1月26日（水）14時頃、情報学環・学際情報学府ウェブサイトに掲載する。
- (2) 最終合格者の受験番号は、令和4（2022）年2月15日（火）14時頃、情報学環・学際情報学府ウェブサイトに掲載する。また、最終合格者に対しては、情報学環・学際情報学府ウェブサイトへの掲載に加えて郵送により通知する。
- (3) 合否の情報について、電話、メールによる照会には、一切応じない。
- (4) 入学許可通知書は、令和4（2022）年4月入学許可者については、令和4（2022）年2月下旬頃、本人宛に郵送する。
- (5) 令和4（2022）年4月入学許可の通知を受けた者は、その際送付される入学手続に関する指示に従い、令和4（2022）年3月の所定の期間内に必要な手続（入学料の振込及び入学手続書類の提出）を行うこと。
- (6) 入学時に必要な経費（令和4（2022）年度予定額）
（日本政府（文部科学省）奨学金留学生に対しては徴収しない。）
 - ①入学料 282,000円（予定額）
 - ②授業料前期分 267,900円（年額535,800円）（予定額）

（注）上記金額は、予定額であり、入学時又は在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用される。

9. 注意事項

- (1) 同一時期の募集において、本学府内の複数のコースに同時に出願することはできない。また、同一時期の募集において、修士課程と博士課程に同時に出願することはできない。
- (2) 他の研究科・教育部（情報学環教育部研究生とは異なる）等と重複して入学することはできない。
- (3) 提出書類は入学者選抜のための重要な資料となるので、正確に作成すること。提出期限までに所定の書類が完備しない願書は受理しない。また、出願手続後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めず、検定料の払い戻しはしない。
- (4) 「受験票」及び「受験者心得」は、出願者本人に郵送する。令和4（2022）年1月4日（火）までに到着しない場合は、必ず本学府事務部学務チーム（前記2.（3））に連絡し、受験に必要な指示を受けること。
- (5) 障害等のある者は、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、これを希望する者は10月22日（金）までに本学府事務部学務チーム（前記2.（3））に申し出ること。
- (6) 外国人は、入学手続までに「出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）」による、大学院入学に支障のない在留資格を有すること。
- (7) 官公庁、企業及び団体等に在職のまま大学院に入学しようとする者は、入学手続の際に、在学期間中学業に専念させる旨の勤務先の所属長の承諾書（様式任意）を提出すること。
- (8) 事情によっては、出願手続及び試験期日等について、変更することもある。
- (9) 出願手続後は、どのような事情があっても、書類の返却はしない。
- (10) 入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしない。
- (11) 出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用する。また、同個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請・図書館の利用等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用する。

(12) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の本学の入試及び教育の改善に向けた検討のために利用することがある。

(13) 提出書類における履歴等について虚偽の記載をした者は、入学後においても遡って入学を取り消すことがある。

(14) 東京大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「東京大学安全保障輸出管理規則」を定めて、技術の提供及び貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れに際し厳格な審査を行っている。規制されている事項に該当する場合は、入学が許可できない場合や希望する研究活動に制限がかかる場合があるので、注意すること。なお、詳細については、以下の本学安全保障輸出管理支援室ホームページを参照すること。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/export-control/ja/rule.html>

(15) 新型コロナウイルスの感染拡大に係る社会状況によっては、募集要項等の内容を変更する可能性があるため、その場合は、以下の東京大学大学院情報学環・学際情報学府ウェブサイトにて最新状況を告知するので、随時確認すること。

<http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/>

令和3（2021）年10月

令和4（2022）年度
東京大学大学院学際情報学府
学際情報学専攻
修士課程入学試験案内
（冬季募集）

総合分析情報学コース

注意：本案内以外に、本学府学生募集要項についても必ず目を通すこと。

出願上の諸注意

1. 入学願書作成に関する注意

- (1) 入学願書は正・副2枚ある。必ず2枚とも提出すること。
- (2) 入学願書(正・副)は、コースにより様式が異なるので、十分注意して選択し、1コースのみ提出すること。万が一、提出書類でコースの選択が統一されていない場合、入学願書(正)で選択したコースに出願したものとして取り扱う。
- (3) 「外国語(英語)受験方法」欄は、該当する項目にレ印を付けること(「外国語(英語)試験について」参照)。
- (4) 「一般選抜/特別選考枠」欄は、該当する項目にレ印を付けること。
- (5) 「出身大学」欄に正確な学部・学科名を必ず記入すること。また、東京大学を令和4(2022)年3月に卒業見込みの者は、現在の学生証番号を記入すること。
- (6) 大学院を修了している場合も、「出身大学」欄には学部に関する履歴を必ず記入すること。また、複数の大学を卒業(見込)又は大学院を修了(見込)の場合は、裏面の履歴に記入すること。
- (7) 「現在の身分」欄は、「出身大学」欄の大学に在学中以外の所属がある場合のみ、所属機関、部署等の名称及び身分を具体的に記入すること。研究生等の場合も同様。
- (8) 入学願書(正・副)、受験票に貼付する画像データと写真票に貼付する写真は、同一のものを使用すること。
- (9) ファクス番号(fax)及び電子メールアドレス(e-mail)の欄は、緊急連絡手段として記入可能なものがあれば、記入すること。

2. 成績証明書に関する注意

- (1) 成績証明書は、必ず教養課程を含んだ4年間分を提出すること。
- (2) 大学院を修了している場合も学部の成績証明書を必ず提出すること。
- (3) 複数の大学を卒業(見込)又は大学院を修了(見込)の場合は、複数の成績証明書を提出してもよい。
- (4) 大学に編入学している場合は、編入学前の大学等の成績証明書も提出すること。
- (5) 原本を提出すること。

3. 指導教員希望調査書に関する注意

- (1) 「学生受入教員名簿(修士課程)」(後掲)を参照の上作成すること。
- (2) 「指導教員希望調査票」に記入する教員は、必ず志望するコースの学生受入教員名簿に記載された教員から選ぶこと。
- (3) なお、指導教員は本調査書の内容を尊重の上、入学後に最終的に決定される。

4. 推薦書に関する注意

- (1) 出願者の専門領域に関わる研究面あるいは、実務面での経験及び能力に関する評価を記入したもの。
- (2) 評価者は、官公庁、企業及び団体等の所属機関の上司、卒業論文他学位論文の指導教員、その他本人の経験及び能力を熟知している者等とする。
- (3) 評価者は、推薦書記入後、指定のウェブサイトへアップロードすること。

5. 日本語学力証明書に関する注意

- (1) 外国人（日本の大学を卒業した者及び卒業見込みの者を除く）は、必ず提出すること。
- (2) 日本語学力証明書の様式は、原則として本案内添付の様式を使用すること。これと別な様式とする場合は、「話す力」「聞く力」「書く力」及び「読む力」の評価並びにその評価方法等が記載された内容の証明書とすること。

6. 各種証明書及び提出書類等に関する注意

- (1) まれに発行元の都合で証明書の原本を提出できずにコピーを提出する場合があるが、この場合、発行元又は公的機関で原本と相違ないことを証明のうえ、提出すること。
ただし、新型コロナウイルス感染症により願書出願期間に各種証明書の原本（原本証明も含む）の提出が困難である場合は、令和4(2022)年度本学府入学試験（冬季募集）に限り、一時的にコピーや電子媒体の証明書でも受理する（原本確認は、入学手続き時に実施する）。
なお、願書提出時に「出願書類チェックリスト」の該当事項を必ず記入すること。
外国語試験の成績証明書の取扱いについては、本入学試験案内の「外国語（英語）試験について」を参照すること。
- (2) 提出する証明書、論文等は、日本語又は英語によることを原則とするが、やむを得ない事情により、他の言語の証明書を提出する場合は、和訳又は英訳した文書を添付すること。

7. 各種提出書類等に関する注意

- (1) 東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻総合分析情報学コース修士課程学生募集要項（冬季募集）「7. 提出書類等」に基づき書類等を整理して各自で用意した角形2号の封筒（240mm×322mm）に封入し、書留速達郵便で送付すること。
- (2) 「受験番号」欄以外は、それぞれの書類の注意書き等に従い、該当する箇所すべてを記入すること。
- (3) 複数の書類に共通して記入する事項については、記入後、相違がないか必ず確認すること。
- (4) 「研究計画書」は、必ず表紙(所定様式)の後ろに添付して、クリップで留めること（ホッチキス、糊等で綴じないこと）。
- (5) 受験票送付用封筒として、各自で用意した長形3号の封筒（120mm×235mm）の表（おもて）に出願者本人のあて先（郵便番号、住所及び氏名）を記入し384円分の切手を必ず貼り提出すること。
- (6) 出願書類(各種証明書等)に記載されている氏名と現在の氏名が異なる場合は、改姓名したことが確認できる証明書を添付すること。
- (7) 上記に加え、東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻修士課程学生募集要項（冬季

募集)に基づき、推薦書、写真票、受験票送付用封筒を除いた全ての提出書類を単一の PDF ファイルに統合して提出すること。アップロード方法の詳細はウェブサイトに掲載する。郵送した提出書類と PDF ファイルは必ず同じ内容とすること。提出書類は、個別に指示が無い限り、両面印刷しクリップで留めること。郵送物は返却しない。郵送物、提出書類の到着等に関する電話、メールによる照会には一切応じない。

8. 提出書類の作成上の注意

- (1) 本学府指定の様式(願書等)は、必ず、両面印刷で印刷すること。印刷の際には、裏表が同じ向き(上下)となるように印刷すること。
- (2) 推薦書、研究計画書(表紙)及び自己推薦書については、ワープロでの作成を可とする。ワープロで作成する場合、直接印刷・入力を推奨する。
- (3) その他の様式については、手書きによる作成を推奨する。

総合分析情報学コース案内

本学府修士課程[総合分析情報学コース]は、主にコンピュータサイエンスやコンピュータネットワークの基礎を、例えば情報科学・工学分野や電気電子工学分野、通信工学分野における教育や業務を通じて習得した者を対象として、コンピュータサイエンスをベースとして大量のデジタル情報を分析する分析情報学の学際的な専門教育を実施します。実践的な課題に興味を持ち、実社会においてCIO(Chief Information Officer)等として公共政策やビジネス展開を担える人材並びに、分析情報学及び計算機科学の研究者を育成します。

1. 募集人員

募集人員
21名(うち特別選考枠若干名)(夏季、冬季の入試の合計人数である。)

(注) 試験の結果によっては、入学許可者数が募集人員に達しない場合もある。

2. 試験科目等(一般選抜)

(1) 一次選考

判定は、外国語試験の成績証明書及び書類選考により行われる。

試験	内容
提出書類 (外国語(英語))	「外国語(英語)試験について」(後掲)参照
筆記試験 (専門科目)	以下の6分野から出題される専門科目問題のうち、「 数学基礎分野 と「プログラミング・アルゴリズム基礎分野」の2分野と、それ以外に2分野を選択して、合計4分野について解答する。なお、問題は日本語とこれの英語訳が併記されている。英語訳は受験者の便宜のためであり、日本語が正である。解答は、日本語・英語の

どちらで記述してもよい。

数学基礎分野

- ・線形代数（ベクトル、行列、行列式、線形空間、線形写像、逆行列、線形方程式、固有値と固有空間、2次形式など）
- ・微積分学（関数の極限、連続関数、導関数、テーラー展開、不定積分、定積分、偏微分、重積分、微分方程式など）

など

プログラミング・アルゴリズム基礎分野

- ・プログラミングに関する基礎的な技能
- ・基礎データ構造（リスト構造、配列、木構造、構造体など）
- ・基礎アルゴリズム（ソート、サーチなど）
- ・抽象データ型、計算量理論、グラフ理論

など

分析情報学基礎1 分野(情報空間の分析情報学基礎)

- ・統計(確率、各種確率分布、検定、ベイズ推定、など)
- ・データ分析(回帰分析、多変量解析、主成分分析、など)
- ・機械学習(線形分類器、カーネル技法、サポートベクタマシン、ランダムフォレスト、ニューラルネットワーク、など)

など

分析情報学基礎2 分野(実空間の分析情報学基礎)

- ・空間情報学(地理情報システム(GIS)、空間データの種類と構造、空間データ分析、空間情報の表現・伝達・視覚化、空間認知・心理・行動、など)
- ・IoT/ユビキタスコンピューティング

など

コンピュータ・サイエンス基礎1 分野(主にソフトウェア)

- ・プログラミング言語(言語の分類、基礎概念、言語処理系基礎など)
- ・オペレーティングシステム(同期・通信、スケジューリング 入出力と記憶管理、仮想記憶、リアルタイム処理など)
- ・コンピュータ・ネットワーク(通信プロトコル、経路制御方式、セキュリティ、暗号化方式、誤り制御、輻輳制御、符号化方式、クラウド、エッジなど)

など

コンピュータ・サイエンス基礎2 分野(主にハードウェア)

- ・論理回路(スイッチング理論、論理代数、組み合わせ論理回路、算術回路、メモリ回路など)
- ・コンピュータアーキテクチャ(歴史、高速化手法と仮想化

	(MMU、キャッシュなど)、基礎並列処理方式、マイクロプログラミング、マイクロプロセッサアーキテクチャ、アーキテクチャのモデル化と評価など) ・コンピュータネットワーク(通信機器、構成技術(プロセッサ、FPGA, ASIC, I/O インターフェース), 伝送路、分散システムなど) など
--	--

(2) 二次選考

一次選考合格者のみを対象にオンライン会議システムにより遠隔で口述試験を行う。口述試験にはネットワークに接続し、カメラで受験者を撮影可能なコンピュータ(ノートパソコン等)が必要である。方法の詳細についてはウェブサイトへ掲載する。また、口述試験で、入試案内の筆記試験(専門科目)にて示されている内容について試問を行う場合がある。

試 験	内 容
口述試験	基礎及び専門学力、研究能力について総合的に行う。あらかじめ与えられた全受験者共通のテーマ(注)について発表を行うが、本人の説明時間は7分以内とする。

(注) 発表の要項の詳細とテーマについては、受験票とともに郵送される「受験者心得」により知らせる。

3. 特別選考枠

本コースの特別選考枠は、実務経験を有する者の特別選考枠とする。下記の条件を重視して選抜を行う。提出書類、試験科目は一般選抜と同じである。

(1) 条件

社会人としての実践経験、情報・電気電子分野における技術的な活動の経験を有し、高い専門性を持つ者

(2) 出願時提出書類

一般選抜と同じ

(3) 試験科目

一次選考 一般選抜と同じ

二次選考 一般選抜と同じ

外国語（英語）試験について

一次選考における外国語（英語）の試験は下記Aの方法による。

本学府が指定する TOEFL-ITP は実施しない。

入学願書の所定欄の希望する受験方法に一つだけチェックすること。

なお、外国語（英語）の試験について、下記で指定する受験方法以外は認めないので注意すること。

A. 次のア、イ、ウ、エいずれか1つを提出する。

ア. TOEFL-PBT または TOEFL-iBT の公式スコアシート

※TOEFL iBT Special Home Edition も可

イ. TOEIC の公式認定証

ウ. IELTS の公式成績証明書

※Computer Delivered IELTS（アカデミック・モジュール）も可

エ. 実用英語技能検定（英検、英検 CBT、英検 S-CBT）の合格証明書、英検 CSE スコア証明書

【ア. TOEFL (<https://www.cieej.or.jp/toefl/>) について】

○試験の種類：TOEFL-PBT または TOEFL-iBT とする。

※TOEFL iBT Special Home Edition も可

○有効期限：本学府入学試験の2年前(2020年)の1月1日以降、別紙「学生募集要項(2. 出願方法・出願期間)」記載の出願受付期間終了までに受験したものに限定する。

○提出書類：下記①と②両方とも必要

①「Examinee Score Report (Examinee's Score Record)」のコピー、または、「Test Taker Score Report」を印刷したもの。

Examinee Score Report (Examinee's Score Record) は、ETS (Educational Testing Service) から本人に送付されるものである。

Test Taker Score Report は、TOEFL のウェブサイトを確認すること。

(<https://www.ets.org/jp/toefl/ibt/scores/get/>)

②「Institutional Score Report」または「Official Score Report」

Institutional Score Report または Official Score Report は、ETS から東京大学大学院学際情報学府宛 に直送されるものである。

受験生は、ETS に対して Institutional Score Report または Official Score Report の送付を請求する必要がある。

○提出方法：①「Examinee Score Report (Examinee's Score Record)」のコピー、または「Test Taker Score Report」を印刷したものを、願書提出時に他の書

類と共に本学府に提出することを原則とする。ただし、上記有効期限内に受験したもので、願書提出期間に間に合わない場合は、願書提出時に「出願書類チェックリスト」の該当事項を必ず記入すること。その上で別途、各自で用意した封筒を用いて、令和4(2022)年1月4日(火)本学府必着で書留速達郵便により郵送すること。

- ② 「Institutional Score Report」または「Official Score Report」の到着期限は、令和4(2022)年1月4日(火)本学府必着とする。ETS に対して東京大学大学院学際情報学府宛「Institution Code コード：0440 (U of Tokyo, Grad Sch Inter Info)」「Department コード：“99”(Any Department Not Listed)」へ送付するよう必ず請求する。

注) 請求方法などは、TOEFL のウェブサイトですべて確認すること。

<https://www.cieej.or.jp/toefl/toefl/scores.html>

- 注意事項：※ Institutional Score Report または Official Score Report が複数枚届いた場合は、①と同一のスコアを採用する。
※ 各スコアの到着には約6週間程度かかることがあるので、日程に余裕を持って受験又は請求すること。詳しくはTOEFL ウェブサイトで確認すること。
※ 不正が判明した場合は、受験後であっても、受験資格を取り消す。

【イ. TOEIC (<https://www.iibc-global.org/toEIC.html>) について】

○試験の種類：TOEIC L&R または TOEIC Test とする。

※ 「TOEIC S&W、TOEIC Speaking、TOEIC Writing、または TOEIC SW Test」、
「TOEIC Bridge Test または TOEIC Bridge」のスコアは受け付けない。

○有効期限：本学府入学試験の2年前(2020年)の1月1日以降、出願受付期間終了までに受験したものに限定する。

○提出書類：「Official Score Certificate」(公式認定証)の原本とする。

原本を提出できない場合は、事前に本学府事務部学務チームにメール(gakumu@iii.u-tokyo.ac.jp)で連絡のうえ、学務チームに原本を郵送(必ず返信用封筒(現住所および本人氏名を明記し、切手を貼付)を同封すること)し、原本と相違ない旨の証明を受けたものを提出すること。

団体特別受験制度(IP: Institutional Program)のScore Report(個人成績表)、スコアシートのコピーなどは受け付けない。

○提出方法：願書提出時に他の書類と共に本学府に提出することを原則とする。

ただし、上記有効期限内に受験したもので、願書提出期間に間に合わない場合は、願書提出時に「出願書類チェックリスト」の該当事項を必ず記入すること。その上で別途、各自で用意した封筒を用いて、令和4(2022)年1月4

日（火）本学府必着で書留速達郵便により郵送すること。

○注意事項：※ 不正が判明した場合は、受験後であっても、受験資格を取り消す。

【ウ. IELTS (<https://www.eiken.or.jp/ielts/>) について】

○試験の種類：アカデミック・モジュールとする。

※Computer Delivered IELTS（アカデミック・モジュール）も可。

※ジェネラル・トレーニング・モジュールの成績は受け付けない。

○有効期限：本学府入学試験の2年前(2020年)の1月1日以降、出願受付期間終了までに受験したものに限定する。

○提出書類：IELTS 公式成績証明書 (Test Report Form) 原本

原本を提出できない場合は、事前に本学府事務部学務チームにメール (gakumu@iii.u-tokyo.ac.jp) で連絡のうえ、学務チームに原本を郵送（必ず返信用封筒（現住所および本人氏名を明記し、切手を貼付）を同封すること）し、原本と相違ない旨の証明を受けたものを提出すること。また、下記提出方法も参照すること。

○提出方法：IELTS 公式成績証明書 (Test Report Form) 原本は、願書提出時に他の書類と共に本学府に提出することを原則とする。ただし、上記有効期限内に受験したもので、願書提出期間に間に合わない場合は、願書提出時に「出願書類チェックリスト」の該当事項を必ず記入すること。その上で別途、各自で用意した封筒を用いて、令和4(2022)年1月4日（火）本学府必着で書留速達郵便により郵送すること。

また、IELTS を実施している公益財団法人日本英語検定協会の管轄オフィスから大学に成績証明書 (Test Report Form) を送付するサービスを使って提出することも可とする。その場合、令和4((2022)年1月4日（火）本学府必着とする。管轄オフィスに対して東京大学大学院学際情報学府宛へ送付するよう必ず請求する。あて先は、東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻修士課程学生募集要項（冬季募集）「2. 出願方法・出願期間等」を参照すること。

注) 請求方法などは、IELTS のウェブサイトで十分確認すること。

<https://www.eiken.or.jp/ielts/result/>

<https://www.eiken.or.jp/ielts/apply/>

○注意事項：※ 不正が判明した場合は、受験後であっても、受験資格を取り消す。

【エ. 実用英語技能検定 (<https://www.eiken.or.jp/eiken/>) について】

○試験の種類：実用英語技能検定及び英検 CBT (Computer Based Testing)、英検 S-CBT

とする。

○有効期限：本学府入学試験の2年前(2020年)の1月1日以降、別紙「学生募集要項(2. 出願方法・出願期間)」記載の出願受付期間終了までに受験したものに限定する。これから実用英語技能検定を受験する者は、試験開催日を確認し、日程に余裕を持って受験すること。

○提出書類：実用英語技能検定1級または準1級の「合格証明書(和文)」「英検CSEスコア証明書」の原本とする。

原本を提出できない場合は、事前に本学府事務部学務チームにメール(gakumu@iii.u-tokyo.ac.jp)で連絡のうえ、学務チームに原本を郵送(必ず返信用封筒(現住所および本人氏名を明記し、切手を貼付)を同封すること)し、原本と相違ない旨の証明を受けたものを提出すること。

○提出方法：願書提出時に他の書類と共に本学府に提出することを原則とする。ただし、上記有効期限内に受験したもので、願書提出期間に間に合わない場合は、願書提出時に「出願書類チェックリスト」の該当事項を必ず記入すること。その上で別途、各自で用意した封筒を用いて、令和4(2022)年1月4日(火)本学府必着で書留速達郵便により郵送すること。

注意事項：※ 不正が判明した場合は、受験後であっても、受験資格を取り消す。

総合分析情報学コース
学生受入教員名簿（修士課程）

学際情報学府修士課程指導教員のうち、令和4（2022）年度において学生受入を行う教員は以下のとおりである。

「指導教員希望調査書」に記入する教員名は、必ず以下に記載された教員から選ぶこと。

教員名	役職	本コースにおける担当専門分野（キーワード）
浅見 泰司	教授	都市空間情報解析
飯高 隆	教授	地震発生ポテンシャル、地球の構造、波動伝播とシミュレーション、波形処理、振動予測、地震活動
伊東 乾	准教授	非線形音楽音声解析、動的音場解析、表現倫理
植田 一博	教授	認知科学、認知脳科学、知能情報学、行動経済学、ヒューマン・ロボット・インタラクション
門田 幸二	准教授	バイオインフォマティクス、RNA-seq、発現変動、R、統計
金子 知適	准教授	ゲーム情報学、人工知能、探索、機械学習、並列・分散計算
越塚 登	教授	IoT (Internet of Things)、CPS (Cyber Physical System)、Ubiquitous Computing、TRON (The Realtime Operating system Nucleus)、Open Data、Enableware (身体障害の支援技術)
酒井 慎一	教授	自然現象探究、首都直下地震、稠密な時空間センシング技術、災害軽減方策、防災情報リテラシー
貞廣 幸雄	教授	都市解析、空間情報解析、空間的最適化、空間意思決定支援、施設立地支援システム
佐藤 宏樹	准教授	医薬品情報学、医薬品適正使用・育薬、医薬品市販後の調査と情報、薬物動態学、医療薬学、地域医療と薬局・薬剤師、医療薬学、薬剤師と患者のコミュニケーション
寺田 透	准教授	分子動力学、分子モデリング、バイオインフォマティクス
中尾 彰宏	教授	コンピュータネットワーク、第五世代移動通信 (5G)、センサーネットワーク、IoT、機械学習、ネットワーク仮想化、ソフトウェア化 (SDN, NFV)、エッジ・クラウドコンピューティング
森 洋久	准教授	ネットワーク・プロトコル、IoT、地理情報システム 測地系 GLOBALBASE (自律分散型地理情報システム)、姿勢制御 GPS-IMU 数値計算 博物館情報システム
暦本 純一	教授	ヒューマンコンピュータインタラクション、ヒューマンオーグメンテーション (人間拡張)、ヒューマン AI インテグレーション

(五十音順)